

平成26年度
魅力ある地域づくり取組紹介

政策企画局人口拡大課

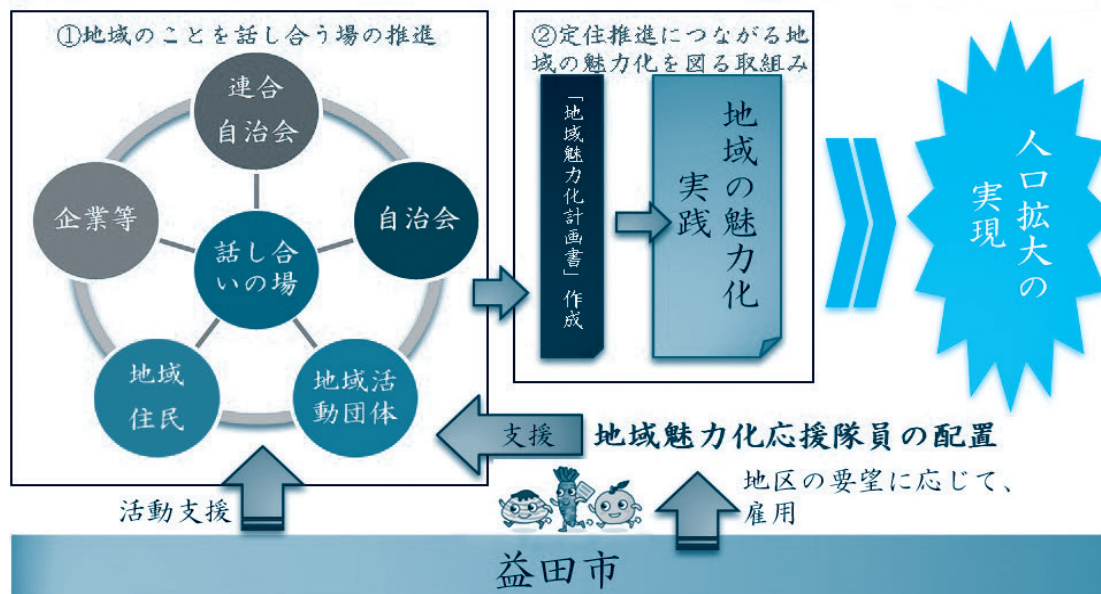
地域魅力化プロジェクト事業スタート！

市では、人口減少、少子高齢化、農業その他の産業における後継者不足等により個々の集落や自治会単位では地域運営が困難となりつつある状況を踏まえ、地域魅力化プロジェクト事業を創設しました。

地域魅力化プロジェクト事業は、地区単位で住民自治を実現する新たなコミュニティとしての地域自治組織の確立に向けて、当該組織の設立のための事業および人口拡大その他の地域課題の解決のための事業への取組を通じて、地域の魅力化を図ることを目的に、平成26年度から平成28年度までの3年間の補助制度として創設したものです。

今年度からスタートしていますので、市民の皆さんのご理解、ご協力をよろしくお願いします。

地域魅力化プロジェクト事業（全体イメージ図）



地域魅力化応援隊員の配置

上記の地域魅力化プロジェクト事業等に取り組む地区からの要望に応じて、地域魅力化応援隊員を配置しています。

地域魅力化応援隊員は当該事業の計画策定の事務サポートや地域のことを話し合う場の設定、集落調査などに取組み、地域を支援していきます。

あなたが住む地域の魅力化を応援します。見かけたら声をかけてね♪



みんなで魅力ある地域づくりを目指そう！



配置地区状況（6月1日現在）合計 15 名

益田地区	吉田地区	高津地区	安田地区	種地区	北仙道地区	豊川地区	真砂地区
西益田地区	二条地区	美濃地区	中西地区	二川地区	匹見上地区	道川地区	

* 次回の「広報ますだ」から各地区の魅力ある取組を紹介する予定です。お楽しみに！*

魅力ある地域づくり

【発行元】
政策企画局
人口拡大課
☎ 31-0600

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol.1

益田地区

『益田の歴史を活かしたまちづくり』

継往開来(けいおうかいらい)という四字熟語があります。「先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開く」という意味です。

益田地区では、先人達が地区特有の歴史・文化資源を活かしたまちづくりを手掛け・推進してきました。今年度の地域魅力化プロジェクト事業は、『歴史を活かしたまちづくり』をさらに推進することにより、益田地区の魅力を高め、人口拡大に繋げていきます。今年は以下の事業を計画しています。

【事業①】

旧山陰道「埴山峠(たおやまとうげ)」の整備・清掃活動と、活用策として案内板の設置を行います。また、「山陰道を踏破する!第2弾」等のイベントで益田地区の旧街道を広めます。

【事業②】

「手づくり鎧かぶとでまちおこし」です。手づくりした甲冑を十数領作り(現在は7領制作)、益田家文書里帰り展、室町文化フェスティバル等のさまざまな歴史イベントで披露・活用します。

尼子フェスティバルの様子



【事業③】

第13回歴史探訪ウォーキングを9月28日(日)に実施します。「益田のおやかたさまを訪ねて!」をテーマに、三宅御土居、七尾城通り、七尾城跡を巡り、歴史・文化を再発見します。

益田地区振興センター

地域魅力化応援隊員 石田 貢三

吉田地区

『吉田の地域魅力化プロジェクト事業』

今年度から益田市全域で人口拡大・定住・交流人口拡大につなげようと地域魅力化プロジェクト事業が始まりました。吉田地区では事業を進めていくにあたり地域自治組織設立準備委員会として「吉田の未来を考える会」準備会を設立しました。(今年度の「吉田の未来を考える会」準備会の組織構成員は吉田地区振興センター運営委員としています。)

準備会において、地域魅力化事業を地区内に公募し協働で事業を進めていくことを決定しました。また、吉田地区における地域自治組織についての様々な検討を行います。たとえば、組織の構成や役割、地区住民の求める魅力ある地区になるにはどうしたら良いかを考えています。

す。難しい課題ではあります。真剣に協議・検討しているところです。

吉田地区の魅力化応援隊員として、地区住民のご意見やご要望を柔軟に受け入れられる体制作りや、話し合いの場の提供などを準備会の方々と協力して進めていきます。引き続き、地区の方々のご理解とご協力をお願いします。

地域魅力化事業打ち合わせの様子



準備会の様子



吉田地区振興センター

地域魅力化応援隊員 徳屋 映三

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol.2

高津地区

『歴史と文化のふるさと高津』
『住んでよかった・住みたくなった・高津』

高津地区は人口が約8,700人と市内で2番目に多い地区ですが、少子高齢化の影響で、独居世帯の増加や将来的な人口減少も予測されています。また、小中学生の減少も深刻となっているため、少子高齢化や人口減少をどのようにして食い止めるかが喫緊の課題となっています。

その課題を解決していくため、地域魅力化プロジェクト事業を通じて、連合自治会、地区振興センター・公民館運営委員会を中心に高津地区地域づくり協議会を立ち上げ、将来的な地域運営を目指していきます。

当協議会の取組としては、高津地区の実態調査や、人口拡大に向けた定住推進に繋がる取組、空き家調査などを実施してU・I・ターナー者の受入体制の構築

を図ること、

そして歴史と

文化を活かし

た交流など魅

力ある地域づ

くりに取り組むことで、『住んで

よかった、住みたくなった・高

津』を目指していきます。

今年度は、地域の魅力化を図

るための取組として、①益田市

柿本人麿公の偉業を顕彰する事

業 ②高津やぶさめ継承事業

③高津の歴史、文化、旧跡保存

事業 ④高津花いっぱい事業を

計画しています。



▲高角橋のパフレット



▲高津地区の歴史と文化についての勉強会

高津地区振興センター

地域魅力化応援隊員

堀江

栄二

安田地区

『感謝の心をもって子どもたちに繋げていく』

『子育て世代が住みたくなる、子どもを産み育てたいと思えるような安心・安全なまちづくり』が今年度の地域魅力化事業の目標です。

安田地区には、各種事業や行事・地域振興を主体的に取り組む婦人会、消防団、老人クラブ、プレーパーク千鳥園等の団体が数多く存在しています。

しかし、就業構造の変化や個人の価値観の違い等によりボランティア組織・団体への加入者の減少、実践者の高齢化により組織・団体の存続が危ぶまれています。

そこで、連携に満ちた魅力ある地域づくりを図るため、



▲プレーパーク千鳥園の様子



▲フリーマーケットの様子

若い世代がもつと肩の力を抜いて気軽に参加できるように、前年度までの地域力アップ事業をリニューアルしたフリーマーケットや託児付き手作り講習会、親子で一緒に歴史めぐりスタンプラリーや史跡・遺跡マップ作りなどの開催を予定しています。

先駆者の業績に感謝して、一緒に楽しく地域貢献しませんか。お気軽にご参加ください。お待ちしております。

安田地区振興センター

地域魅力化応援隊員

大畑

明子

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol. 3

種地区

『近くて静かな田舎暮らしを次世代へ』

種地区は、昨年度、地域自治組織の設立に向けたモデル地区の指定を受け、地域振興、産業振興、地域の活性化を図ることを目的に「種むらづくり推進協議会」を母体にして、地域自治組織の設立に向けた検討を行っています。

協議会では、自治会をはじめとする種地区の活動団体が網羅され、耕作放棄地対策と農産物加工品の製造を行う農事組合法人「アグリ種」も参画し、地区の魅力化、人口拡大に向けての取組を行っています。

また、島根県中山間地域研究センター研究統括監の藤山浩氏を招いて、種地区での研修会の開催や山口県、雲南市をはじめとする先進地の取組に対する視察調査や勉強会に参加して、先進地の事例を学びました。

今後は、戸数107戸、人口315人の小さな地区で、どのような組織づくりが可能であるか検討しながら、「種モデル」を模索して地区での話し合いを進めていきます。



地域づくりについての研修会



地域自治組織についての検討会議

種地区振興センター

地域魅力化応援隊員

川辺

雅秀

北仙道地区

『北仙道地区地域自治組織設立準備会議』発足!!

平成29年度からの「地域自治組織」設立に向けて、今年度を「準備元年」と位置付け、7月13日に「北仙道地区地域自治組織設立準備会議」が発足しました。

その発足の前段として、6月23日に「地元学 in 北仙道」が開催され、北仙道地区を地区外の人達と地元の住民とが一緒に歩きながら、「見たり、聞いたり」など地区の魅力を再発見し、地元の良さをみんなで共有しました。そんな地元学を開催したことで、改めて地区の魅力に「気付かされ、触発され」その後の活動に活かしていけると確信しています。



「地元学 研修会 in 北仙道」にて、ワークショップ発表



「キャンドルライト in あかがり&案山子コンテスト」にて、「あぜ道アンケート」実施

この取組を踏まえて準備会議では、今年のスローガンを『AA（トリプルA）宣言!! 歩く・集める・明日へ向けての基礎力テの作成元年です!!』と掲げ、地域魅力化プロジェクト事業として、地区内全戸への「戸別アンケート」によるニーズ把握、「キャンドルライト in あかがり&案山子コンテスト」による交流人口の拡大や地区出身者にU・Iターンを想定した「あぜ道アンケート」による意識調査、GISを活用しての地区内の様々な基礎資料の作成に取組みます。

北仙道地区振興センター

地域魅力化応援隊員

堀江

宗仁

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol. 4

豊川地区

『魅力ある地域づくりを目指して!!』

豊川地区では、「地域魅力化プロジェクト事業」として、「地域自治組織設立準備事業」と「地域魅力化事業」を進めていきます。

地域自治組織設立準備事業では、人口の減少、少子高齢化、農業等の後継者不足により地域運営が困難となりつつある状況で、地域自治組織の設立のための準備会、「豊川地区まちづくり協議会準備会」を立ち上げ、地域課題の解決を図るための取組みを展開し、地域の魅力化を推進していきます。

地域魅力化事業では、豊川地区に相応しい3つの事業を計画しています。

①GIS（地理情報システム）によるマップの作成事業
定住（空き家）・農地（耕作放棄地）・防災（危険箇所）・遺跡（観光）等、多様な部門でのマップ（資料）

を作成し利活用を図ります。

②歴史的遺産、名勝等の利活用、再整備および保存事業

豊川地区に数多く点在している歴史的遺産、名勝等の再整備および維持管理を図り、併せて利活用について考えます。

③次世代育成に関する事業

今年度より、つろつて子育て推進協議会の主催で、小学生を対象とした寺子屋支援事業に取組んでいます。今後も、学習の習慣づけや意識向上を目標とした自学支援を行いたいと考えています。



上久々茂自主防災会図上訓練



寺子屋自学支援教室

豊川地区振興センター

地域魅力化応援隊員

岡崎

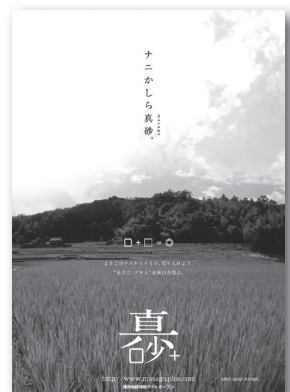
友臣

真砂地区

『ナニ かしら 真砂』

高齢化率50%、小学生16人、中学生11人、こんな小さな地域真砂。でも ナニ かしら元気な真砂。市内保育園の給食野菜の提供で ナニ かしら元気にお年寄りが野菜づくり。小学生、中学生が地域の食材を使ったメニュー開発で ナニ かしら元気な地域商社。ここ数年で ナニ かしら元気になった真砂。地域が元気になっていくには、皆で一緒に力を合わせて前向きに頑張る事が必要。真砂地区は昔からそういった機運があったような気がします。今、平成28年の自治組織の立ち上げに向け、基盤づくりが必要とされていますが、この度「総務大臣表彰」を受賞した事により、さらに地域が一つになり準備がすすめられることと思います。

全国的に高齢化が進み人口減



となっていて、真砂地区はわずかながらU・イターンもあり地域維持に希望を持っているところ。これから ゆっくりと少しずつ…



真砂地区振興センター

地域魅力化応援隊員

齋藤

浩文

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol. 5

二条地区

『二条里づくりの会発足』

二条地域の新たな里づくり、活性化に向けて昨年8月30日に「二条里づくりの会」（自治組織）が益田市で最初に設立されました。

平成25年7月に二条地域自治組織準備委員会が各自治会から推薦を受けた20名で発足し、地域の皆さんへの聞き取り調査、委員によるワークショップ、先進地視察、研修会等を行い、地域の課題点や課題の洗い出しを行ってきました。そうした中から「里山を生かし、人と自然がつながる二条」をテーマに組織を立ち上げ、地域全員の力で新たな事業を展開し活力ある二条を目指しています。組織は、三つの部会（なりわい、くらし、ひと）から構成され、それぞれが目標を決め地

域一丸となって取組み、参画できる事業を進めています。二条に生まれて良かった、二条に住んで良かった、そして皆が生き生き、楽しく、心豊かな地域を目指し、みんなつろうて ようしょうやあ！



二条里づくりの会全体会議

二条地区振興センター

地域魅力化応援隊員

安野

稔起

小野地区

『歴史や地域資源を活かしたまちづくり』

今年度、小野地区では地域自治組織の設立に向けて、「小野地区地域づくり協議会準備委員会」が発足しました。

現在、当準備委員会は、地区振興センター運営委員会を中心に構成されています。今後は地区内の団体やサークル等にも当準備委員会への加入を促しながら、色々な立場の方から意見を広く求めている、小野地区のまちづくりを進めていきたいと考えています。

また、地域の魅力を高める取組みとして、①ボランティアガイドの育成、②地区内の石碑を調査した本の編集、③地区内5つの自主防災組織の連携支援、④小野地区の歴史書「小野ふるさと誌」の作成に取組んでいます。

特に、①ボランティアガイドの育成では、地区内のボランティアガイドが「小野中学校ふるさと学



ふるさと講演会

習講演会」や益田市立歴史民俗資料館主催の「街角ウォーク」で小野地区の自然、歴史や景観などの説明を行うなど、これまでの地域づくりの成果が少しずつ現れ始めています。今後はより多くの方が小野地区のガイドができるようボランティアガイドの育成に取組んでいきます。

その他にも小野地区の歴史や地域資源を有効的に活かしながら、まちづくりに取組んでいきます。



街角ウォーク

小野地区振興センター

地域魅力化応援隊員

山本

勉

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol.6

中西地区

『転出減および交流人口拡大の取組について』

中西地区では、地域自治組織設立に向けて「中西地区自治組織設立準備委員会」を立ち上げました。

地域魅力化プロジェクト事業を活用して、次の3点を柱に取組んでいます。

①何でもお助け隊事業

支援をしていただける人に「何でもお助け隊員」として登録していただき、高齢者世帯における住居周りの除草や溝掃除などの生活支援を図り、安心して住み続けられる中西地区を目指しています。

②環境保全対策事業

「中西地区有害鳥獣駆除隊」を結成し、被害調査や駆除対策の検討を行っています。

また、「不法



中西地区振興センター
地域魅力化応援隊員 若槻 久嘉

投棄見回り隊」を結成しており、不法投棄監視体制の強化と地区民が協力して植栽すること、魅力ある環境保全を目指しています。

③交流拠点整備事業

大道山頂上（標高419.6mで語呂合わせが「良いこと来る」）に石碑を設置し、地区内外から訪れる方々の交流拠点として整備します。その他に、



「中西いき活き市」と銘打ち、平成24年から毎月第3土曜日の午前中、農産物等の即売市を開催しており、交流の場としても定着しています。皆さんのお越しをお待ちしています。

美濃地区

『住民主体の地域づくりがはじまる！』

美濃地区では、自主自立の地域を目指して継続的な取組が出来るような体制を確立するため、8月に「美濃地区自治組織設立準備会」が設立されました。

また、並行して国土交通省が実施する「小さな拠点」づくりのモニター調査に選定され、市が実施する地域魅力化プロジェクト事業との合わせ技により、美濃地区の未来に繋がる「人づくり」、「地域づくり」を進め、「住み良いまちづくり」の可能性を模索して美濃地区版の「小さな拠点」の具現化を図っています。

まずは、地区住民の実態を共有するために「本音承り書」を作成し、各自治会が連携し、自治会から選ばれた各調査員28名が全162世帯に向けて実態調査を行っています。また、美濃地区における魅力と今後の「小さな拠点」づくりに向けて、講演会を開

催し、地区住民の皆さんで地区のことを意見交換しました。更に、交通弱者対策に「美濃地区交通を考える会」としてワークショップを開き、様々な意見を取り入れて、今後、交通実証実験に活かしていく予定です。

これまで地域の交流拠点であった美濃小学校の廃校を機に地域の将来への危機感が高まる中、「小さな拠点」づくりを通じて、地域コミュニティの再構築を図り、集落の枠を超えた新たなコミュニティを目指していきます。



講演会におけるトーク&ひるめしを通じた意見交換



「本音承り書」の内容協議の様子

美濃地区振興センター
地域魅力化応援隊員 真庭 太樹

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol.6

鎌手地区

『住んでみたい あの手』

鎌手といえば、何と言っても「日本水仙の里」であり、平成7（1995）年から鎌手ふるさとおこし協議会を中心とした住民の手で毎年10アールずつ山林を切り開き、堆肥を入れ、肥料を撒き、草を刈っています。その人数は年間延べ250名を超え、今では3ヘクタールに広がった唐音水仙公園があります。

ボランティア団体、地元の小・中学生から大人までコツコツと植え続けた球根も分球を繰り返して現在では200万球を超えました。県内外から毎年1万人を超える多くの方が冬場の花園を求め観光に訪れる地区となっています。



球根掘り



球根の植付

鎌手地区振興センター

地域魅力化応援隊員

鶴頭

定廣

《はがゆーて、はがゆーて》

苦労して育てた野菜を「晩飯のおかずにしよう」と、畑に行ってみりゃー なんにもありゃーせん。」収穫を予定していた朝方には何も無くなり全部が鳥獣の餌になってしまっていた。「情けなーとも、情けなーとも！」何人もの方から眉をしかめ悲痛の叫びに似た訴えがあったことから鳥獣駆除講習会を企画した。

第1弾として、特定外来種（ヌー トリア・アライグマ）の駆除対策講習会を受講し、39名に防除従事者証が交付された。

第2弾は、厄介者の猪などを捕獲するため、狩猟免許の取得を目指し、学科試験と実技試験に見事一発合格した4名に島根県知事から免許状が交付され、頼もしい鎌手の狩人が誕生した。次年度は25名の受験希望者があり、多くの狩仲間が誕生する予定である。

もう、あの「はがゆーて」の声は鎌手からなくなる??

二川地区

『誰もが生涯現役のまちを目指して！』

二川地区では、美都町が益田市に合併した後、平成19年に「二川の未来を創る会」によって、二川まちづくり提言書が作成され、自治会の一本化・自治会輸送・見守り活動などが実現しました。それから7年が経ち、人口が約80人減、小学校の閉校があり、美都温泉や学校跡地を活用した交流人口の拡大などの課題を抱えています。

そうした中で、二川地区地域自治組織設立準備委員会を立ち上げ、毎月1回の会議で「二川の10年後はどうなっているか」「自分達や集落でできること」等のテーマを決めて話し合っています。

準備委員会は二川で居住・活動する人、10代から70代の幅広い世代20人で構成されています。最初は「これ以上どうにもならない」といった感じの会議でしたが、会議を重ねて地域の実情を知ること

とで、前向きな意見が出るようになりました。

地域自治組織の設立により地域のことを考える機運が再び訪れ、提言書の更新をしながらまちづくりプランの作成を進めています。



旧二川小学校



準備委員会における会議の様子

二川地区振興センター

地域魅力化応援隊員

小原

静伍

魅力ある地域づくりの取組紹介

Vol.7

匹見上地区

『やってみようぜー！地域づくりー！』

匹見上地区では、平成26年度からスタートした地域魅力化プロジェクト事業に取組むため、7月に地区振興センター運営委員会を中心に12名の委員で地域自治組織設立準備委員会を立ち上げ、『話し合い、魅力ある「まちづくり」を地域の方と一緒に』をテーマに取組んでいます。

魅力ある地域づくりを図るため、①駅前ビルEAGAにて地区の特色ある特産物を地元の団体が直接販売し、消費者のニーズを把握しながら販売の促進につなげて地域振興を図る「わがまち自慢フェア」の実践、②高齢者と小中学生との異世代交流を深めながら、古くから伝わる伝統芸能等の継承、③鳥獣被害に対して、地域全体で情報共有しながら、地域住民の自主的な鳥獣被害対策など様々な事業を展開しています。

匹見上地区振興センター

地域魅力化応援隊員 大畑 馨



中学生との交流「盆踊りの伝承」

わがまち自慢フェアの様子

ですが、地域の魅力を十分に活かし「匹見にきんちゃい」「匹見に住みんちゃい」「匹見にいたい（帰りたい）」と思えるような地域を目指して、地域住民の声に耳を傾けながら、住民の力で魅力ある地域づくりに取組んでいます。

道川地区

『出合い ふれあい 助け合い』の里みちかわ
～地域で共にくらす～

道川地区の人口は146人で、市内では一番人口が少ない地区です。

現在の人口減少、少子高齢化を背景に、喫緊の地域課題の解決に向けて柔軟な対応ができるよう、平成21年に「道川地域づくり協議会」を発足しました。

現在、同協議会の構成は、自治会を中心に各種団体、地区振興センター運営委員会で構成し、地域運営を行なっています。

「旧割元庄屋美濃地屋敷」「道の駅匹見峡」「産直市出合いの里」の3施設を地域活性化の拠点と位置付け、豊かな自然、神楽や伝統、生活文化を活かした地域産業や観光による賑わいづくり、地域の魅力を伝える田舎体験や世代間交流などを行い、「来てよかった」「住んでよかった」と言えるような地域を目指しています。

道川地区振興センター

地域魅力化応援隊員 高田 純子



交流事業
企画会議



美濃地屋敷での
三世代交流会の様子



地域を語ろう
「井戸端会議」

望で、暮らしのお手伝いとして週4回の配食サービスを始めました。

「道川にこんなものがあつたらいいね。」をひとつひとつ試しながら、地域でできることを模索しています。課題は多くありますが、地域のつながりを力にし、「ここ」だからできるまちづくりを進めていきます。